

第8回定期委

3・25 5割動員 決起確認

日刊動労千葉

84. 3. 15

No. 1589

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七〇七

（オ8回定期委確認スローガン）

一、三〇〇の底力を発揮し、
3・25総力決起を突破口に、
84春闘勝利、三里塚二期阻止、
内達一動乗勤改悪阻止を勝ち

オ8回定期委は、3月14日、県教育会館に、委員、傍聴者、一五五名の結集をもって圧倒的、成功をかちとった。3・25「動労員」をぶちぬくことが一切の勝利の力基との確認も決起も。

闘争宣言

われわれは、本日、県教育会館において、第八回定期委員会を開催し、3・25三里塚現地闘争に、五割動員をもって総決起することを突破口に、内達一動乗勤改悪阻止、八四春闘勝利、国鉄労働運動解体攻撃粉碎の闘いを総力をあげて、闘いぬく方針を、満場一致で決定した。いま世界は、百六十カ国のうち、実に四十カ国で戦争が勃発しており、恐るべき世界戦争突入の危機は日々増大している。

日帝・中曽根内閣は、こうした世界情勢の下で、日米争闘戦の重圧と、自らの体制的危機の深まりの絶望的打開をかけて、軍事大国化・改憲へ向けた全面的反動攻勢をおしすすめている。「戦後政治の総決算」をかかげたこの攻撃は、労働者・人民の闘いをことごとく圧殺し、戦後の階級関係を、右の側から暴力的に破壊する形で凶暴化しており、その突破口を、「三里塚」に定め、全体重をかけ、決戦的攻撃をかけてきている。

われわれは、第八回定期大会方針で決定した、「三里塚一國鉄を基軸に、反動・中曽根内閣と対決する」路線のもと、これこそ勝利の道であることを確信し、闘いつづけてきた。

今、われわれの職場は、相次ぐ無謀な要員合理化による運転保安度の低下や、「五九・二」合理化による膨大な「過員」をもテコとした「職場規律の厳正」第二マル生攻撃によって、荒廃の極にたたま込まれんとしている。われわれは、当局の先兵「働こう運動」推進の動労「本部」革マルの犯罪的裏切りと、国労中央の無方針・無展望な対応が、この職場の荒廃に拍車をかけている現実を直視し、断固たる決意を打ち固め、国鉄労働運動の戦闘的再生へ向けて奮闘しなければならぬ。

一方、三里塚は、脱落派をテコとする今秋二期着工攻撃の嵐の中にある。

三里塚芝山連合空港反対同盟は、この嵐の中で、「農地死守・空港廃港」「一切の話し合い拒否・実力闘争」の基本路線を守りぬき、敷地内を中心に、さらなる団結をうち固め、芝山町議選・鈴木幸司候補の高位当選をかちとり、二期阻止へ向け、意気軒昂と闘いぬいている。

われわれは、敵が軍事大国化一改憲の焦点として攻撃を集中している「三里塚と国鉄」で敵の攻撃を粉碎し、日本労働運動一階級闘争の戦闘的再生をかちとらなければならぬ。今日、八四春闘を前にした、日本労働運動は、敵の体制的死活をかけた攻撃のすさまじさに圧倒され、「賃金」すら守り切れない崩壊の危機にたたま込まれている。

われわれは、三里塚を闘う労働運動の高揚こそが、産報化の危機を打ち破り、労働者・人民の未来を切り拓く唯一の道であることに確信をもって、「3・25三里塚」五割動員を突破口に、内達一動乗勤改悪阻止、三里塚二期着工攻撃阻止、八四春闘勝利、動労「本部」革マル追放・一掃一動労大改革一國鉄労働運動の戦闘的再生へ向けて全力で闘いぬく決意である。

右 宣言する。

一九八四年三月十四日

国鉄千葉動力車労働組合
第八回定期委員会



「三里塚・国鉄決戦勝利のために、1300の総力で撃てよう！」
あいさつにたつ中野委員長（3月14日）